

大人のレッスンシリーズ

ベースを弾こう!



Contents

1章 ベースを知ろう

1	ベースのパーツ	4
2	便利な小物	6
3	弦の種類	8
4	弦交換の方法	9
5	チューニング	12
6	日々のメンテナンス	15

2章 基礎編

1	楽器の構え方	16
2	右手の構え方	18
3	左手の構え方	20
4	ベース本体のコントローラー	21
5	ベース・アンプの使い方	22
6	ベーシストに必要な楽譜の読み方	24

3章 ベーシック・トレーニング編

1	開放弦を弾く	26
2	ドレミに挑戦	32
3	3章のまとめ	34

4章 ベース・ライン編

1	ロック	36
2	ポップス	40
3	ボサノヴァ	42
4	ファンク	44
5	ディスコ	44
6	ジャズ	45
7	ブルース	45



5章 左手のテクニック

- ❶ ハンマリング・オン 46
- ❷ プリング・オフ 47
- ❸ スライド 48
- ❹ グリス 49

6章 エフェクター編

- ❶ エフェクターの接続方法 50
- ❷ エフェクター紹介 51

7章 ベース・スコア

- Paranoid 56
- LOVE GUN 62
- Smoke on the water 69
- 楽典 76

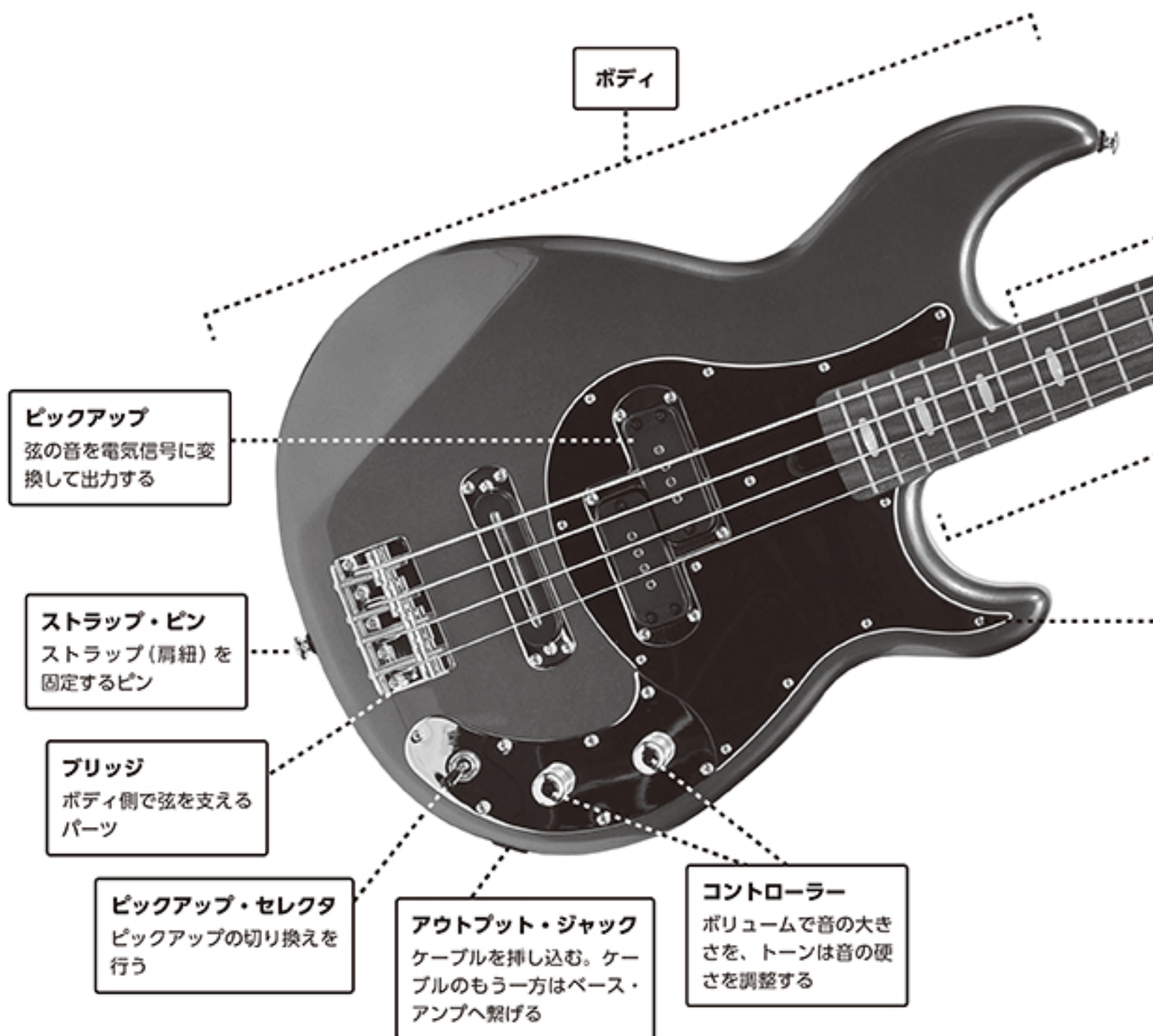
1 章

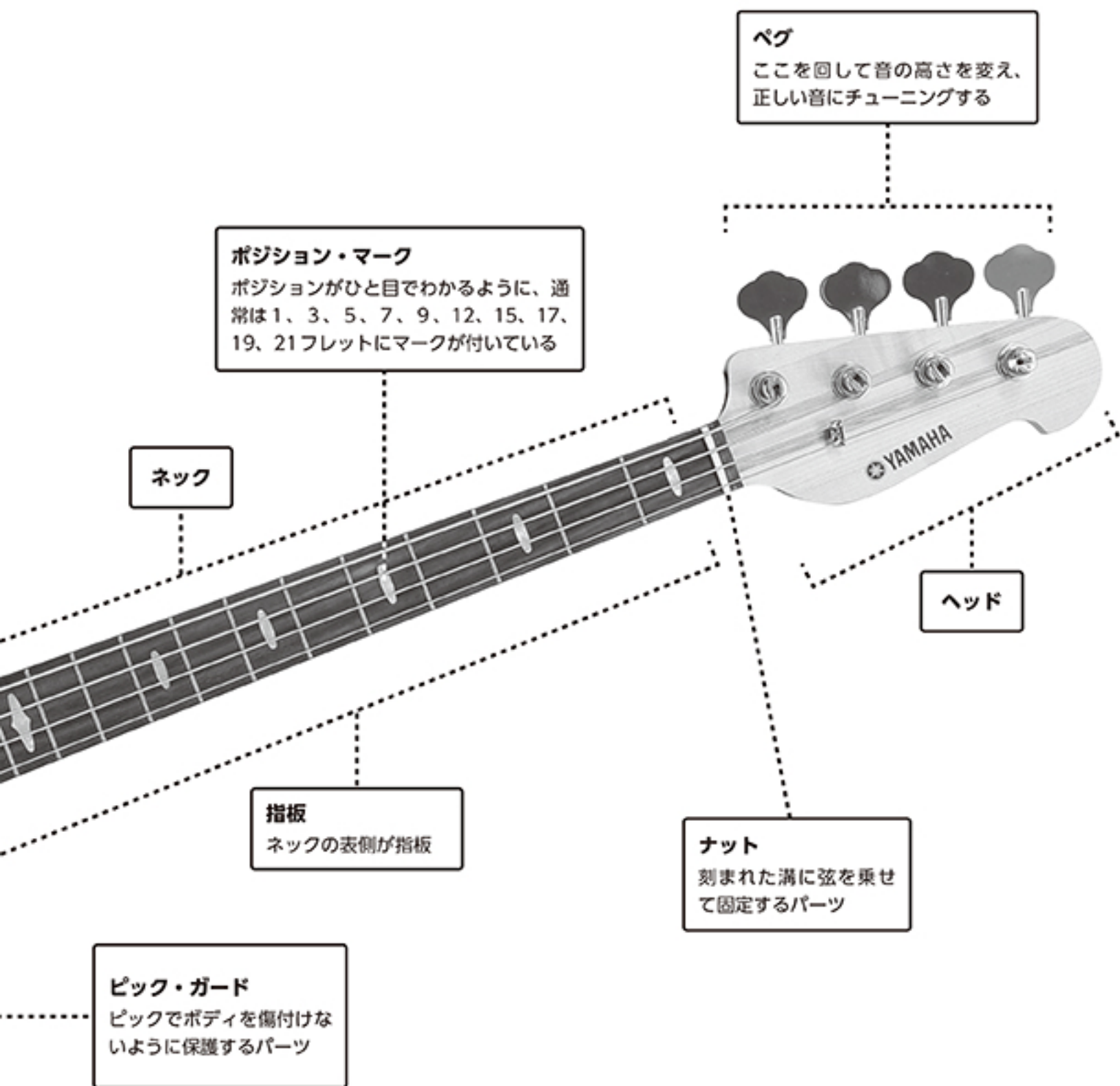
ベースを知ろう

ベースを弾く前に、種類や構造、揃えておきたい小物などを確認しましょう。

1 ベースのパーツ

ベースは大きく分けると、ヘッド、ネック、ボディでできています。





2 便利な小物

ベースを弾く上で一緒に用意しておきたい小物を紹介します。

チューナー



▲チューニングを合わせる機械です。

メトロノーム



▲正確なリズムを刻む道具です。練習には欠かせません。

ピック



▲右手に持って弦をはじく道具。色々な形があります。

ストラップ



▲ベースを立て弾くために、肩から吊るすための道具です。

■ アンプ



▲ベースの音を大きくするスピーカーです。

■ ケーブル



▲ベース本体とアンプを繋ぐ道具です。

■ ヘッドフォン



▲アンプに挿して使います。近所迷惑にも配慮しましょう。

■ クロス



▲楽器の汚れを拭く専用の布です。

■ 楽器ケース



▲ベースを持ち運ぶ際に必要になります。購入時に一緒に付いてきます。

■ ベース・スタンド



▲ベースを立てかけるためのスタンドです。

3 弦の種類

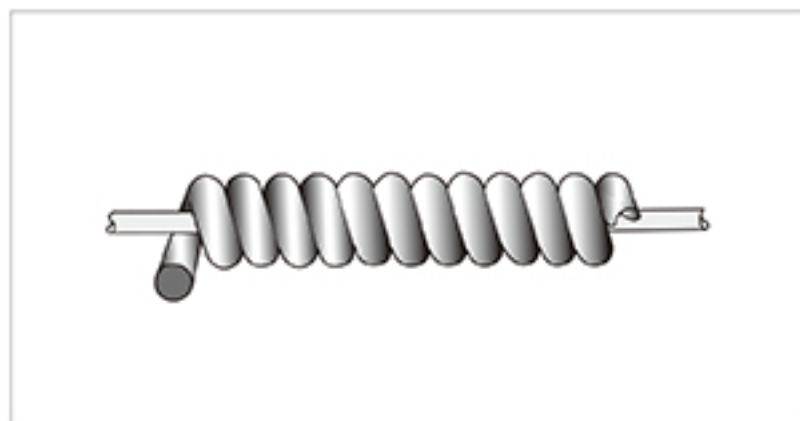
ベースには専用の弦を張ります。たくさんの種類がありますので、わからない場合は楽器店で確かめましょう。

2種類の弦

エレキ・ベースの弦は、大枠に分けて2種類になります。

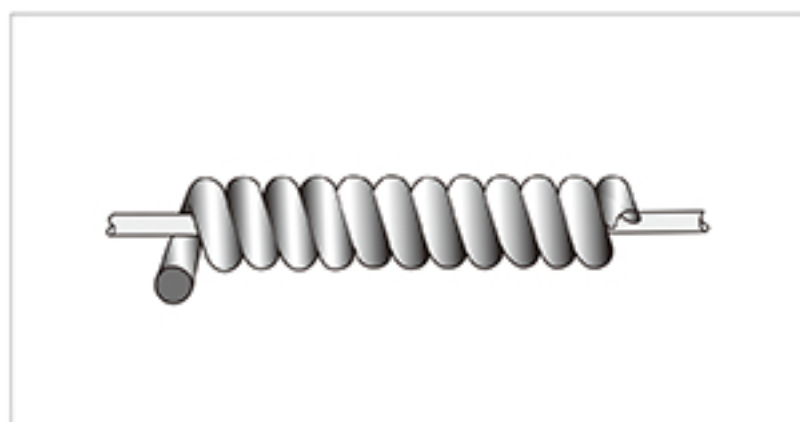
●ラウンドワウンド弦

表面に凹凸があり、明るく輪郭のはっきりした音が出るのがラウンドワウンド弦です。ロックやポップスによく合います。



●フラットワウンド弦

表面に凹凸がなく、丸い音が出るのがフラットワウンド弦です。こちらはジャズやボサノヴァに最適です。



弦の太さ

弦の太さのことをゲージといいます。初めは(045、065、080、100)がおすすめです。

ここにゲージが書いてある

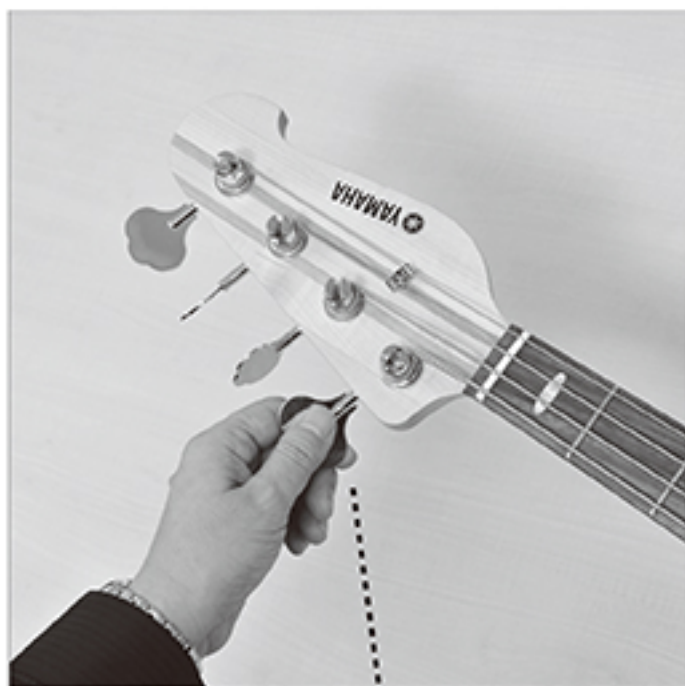


4 弦交換の方法

長く使っていると錆びたり音の張りがなくなってくるため、弦は定期的に交換しましょう。

●手順1

ペグを回して弦を完全に緩めます。弦は1本ずつ交換するので、他の弦はまだ緩めないようにしましょう。



時計周りでペグを回すと弦が緩む

●手順2

弦が十分に緩まったらペグから外します。



ペグから外す

POINT 弦交換の時期

弦が錆びたり、音の張りがなくなってきたら弦交換の時期です。ベースを弾く頻度によって違いますが、半年を目安に弦を張り替えましょう。弦が切れた場合も、全ての弦を交換することが望ましいです。

ただ、古くなって張りがなくなった音を好むベーシストもいるので、張り替え時期については一概にはいえません。

●手順3

弦をボディの裏から抜き取ります。ベースによってはブリッジの後ろから抜き取るタイプもあります。



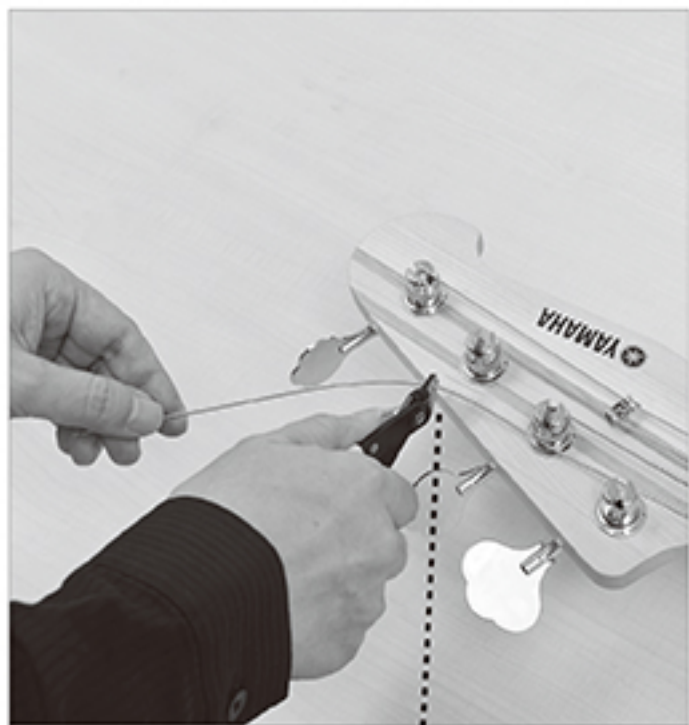
●手順4

ボディの裏から弦を通します。



●手順5

ペグの弦の巻く部分2つ分程度余分に残して、ニッパーで切ります。



弦を切る場所は、4弦だとこのくらい

●手順6

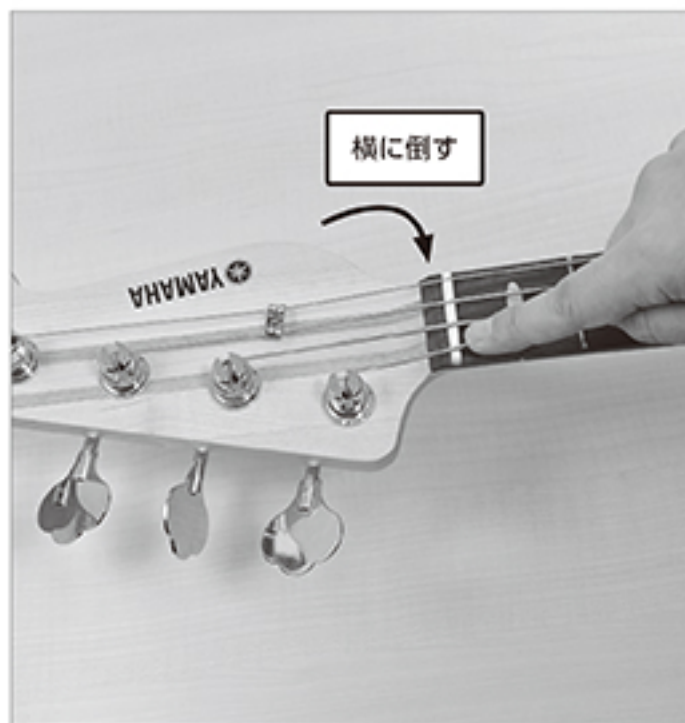
ペグの中にあるくぼみに弦を挿し込みます。



ここにくぼみがある

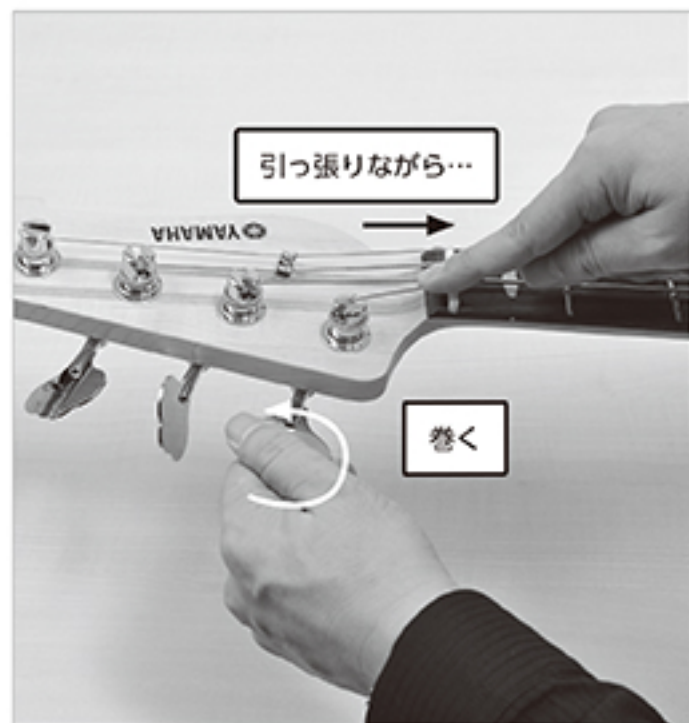
●手順7

弦をブリッジ側に引っ張り、弦を横に倒します。



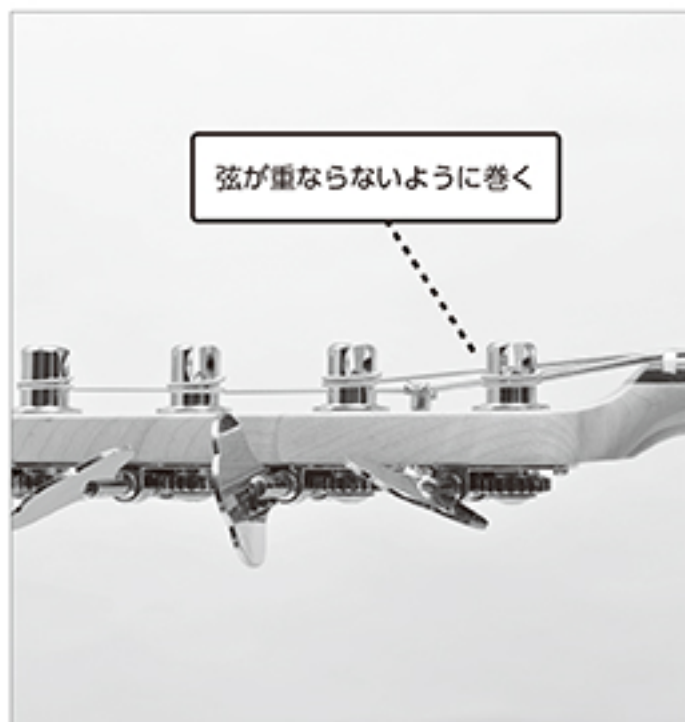
●手順8

弦を引っ張りながら、ペグを回します。



●手順9

このように綺麗に巻ければ完成です。
綺麗に巻くとチューニングも安定します。



コラム 飾り糸

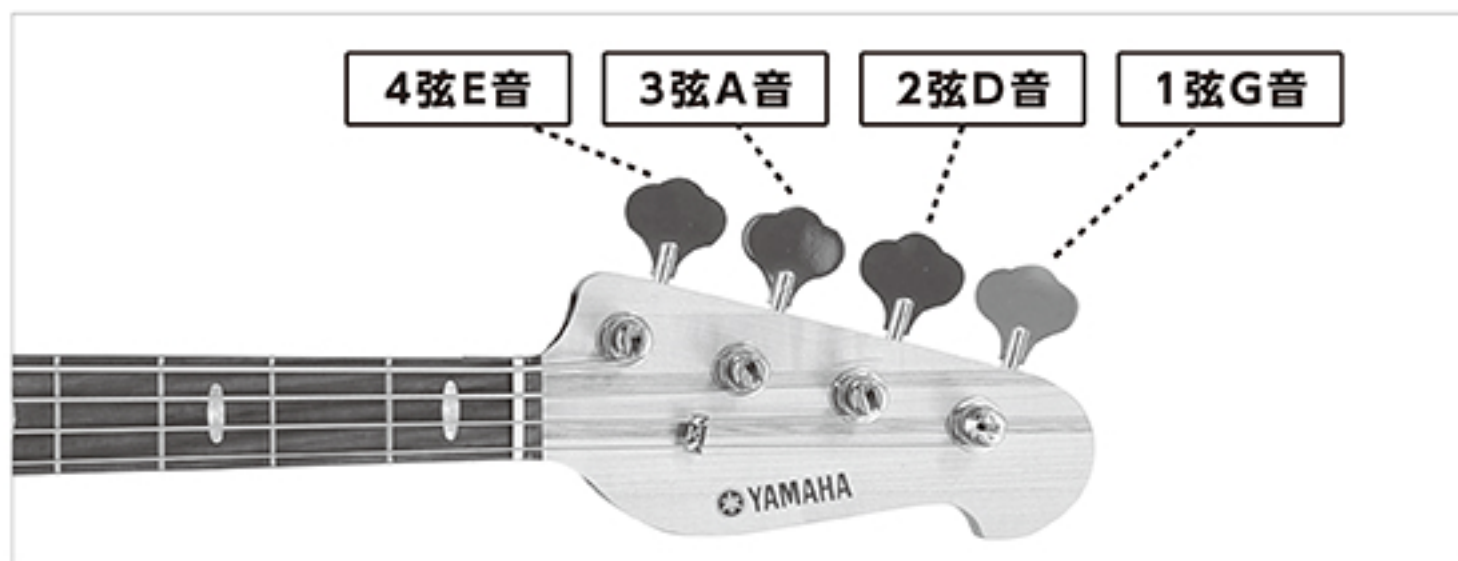
ベース弦の中には、ポールエンド付近と反対側の先端に赤い糸が巻き付けられているものがあります。それは飾り糸なので取らずにそのまま弦を張りましょう。飾り糸が付いている部分は弦が細くなっているため、ペグには多めに巻き付けましょう。

5 チューニング

ベースはチューニング (調律) が狂いやすい楽器です。弦を交換したときだけでなく、弾く前には必ずチューニングをしましょう。

ベースの弦の音程

ベースの各弦の音程はこのようになっています。



チューニングの手順

●手順1

ベースとチューナーをケーブルで繋いで、チューナーの電源を入れましょう。



●手順2

4弦を右手の指ではじいて音を鳴らします。チューナーがE音を表示するように左手でペグを回します。今はまだ大まかなチューニングです。



●手順3

チューナーがE音を表示したら今度は針が中央にくるようにペグを回して微調整します。

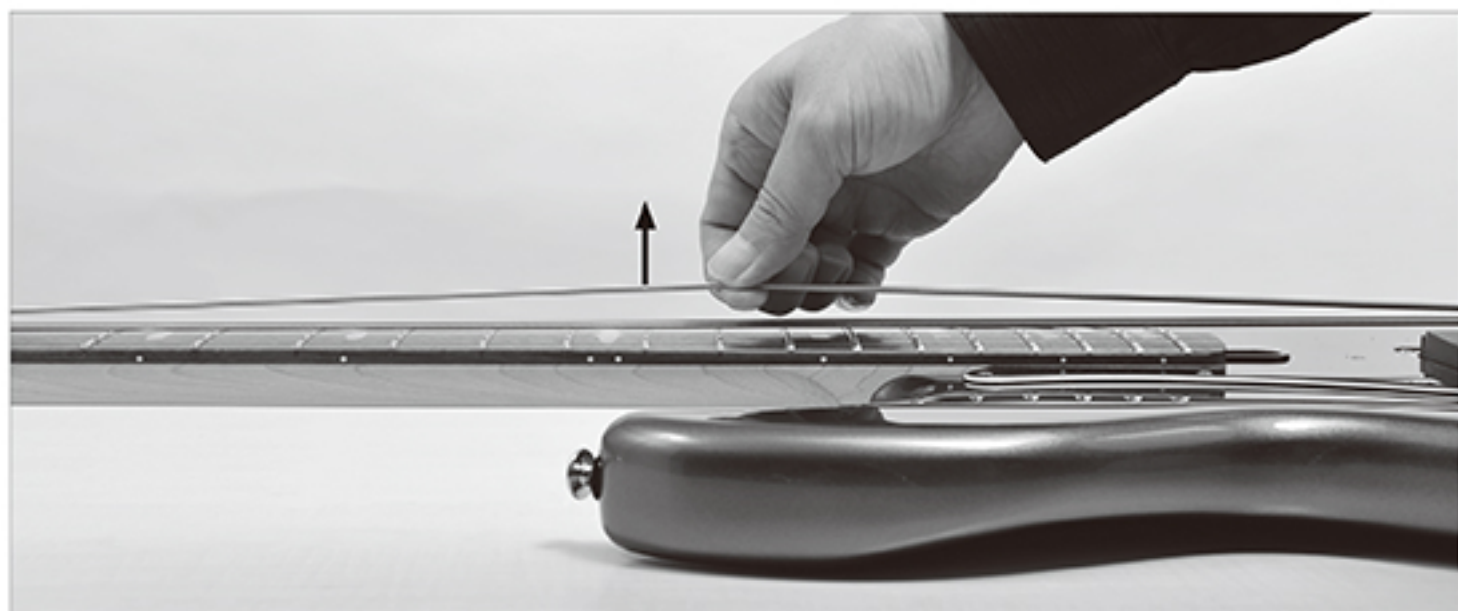


これで4弦のチューニングが完了しました。続いて同じように3弦、2弦、1弦の順にチューニングしましょう。

チューニングの注意点

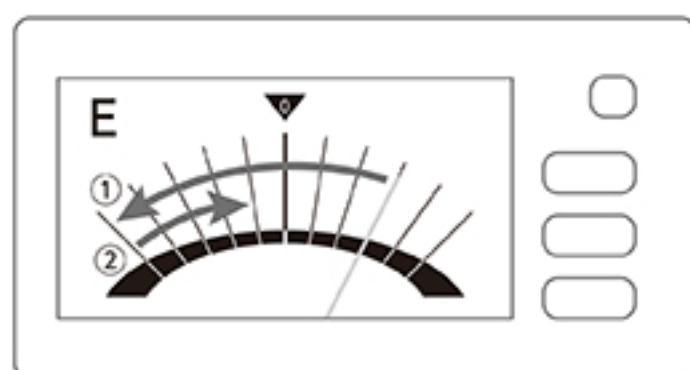
●弦は伸びる

新品の弦を張ってしばらくは弦が伸びてチューニングが狂ってしまいます。弦を伸ばしきってチューニングを安定させるために弦を軽く引っ張りましょう。



●チューニング中、針が上がりすぎたときは、いったん大きく下げる

針が上がりすぎた場合に、そこからちょうどの音に合わると、チューニングした音がすぐ下がってしまい、安定しません。いったん大きく下げて、再度また調整しましょう。



①大きく下げて

②再度合わせる

●もう一度それぞれの弦のチューニングを確認する

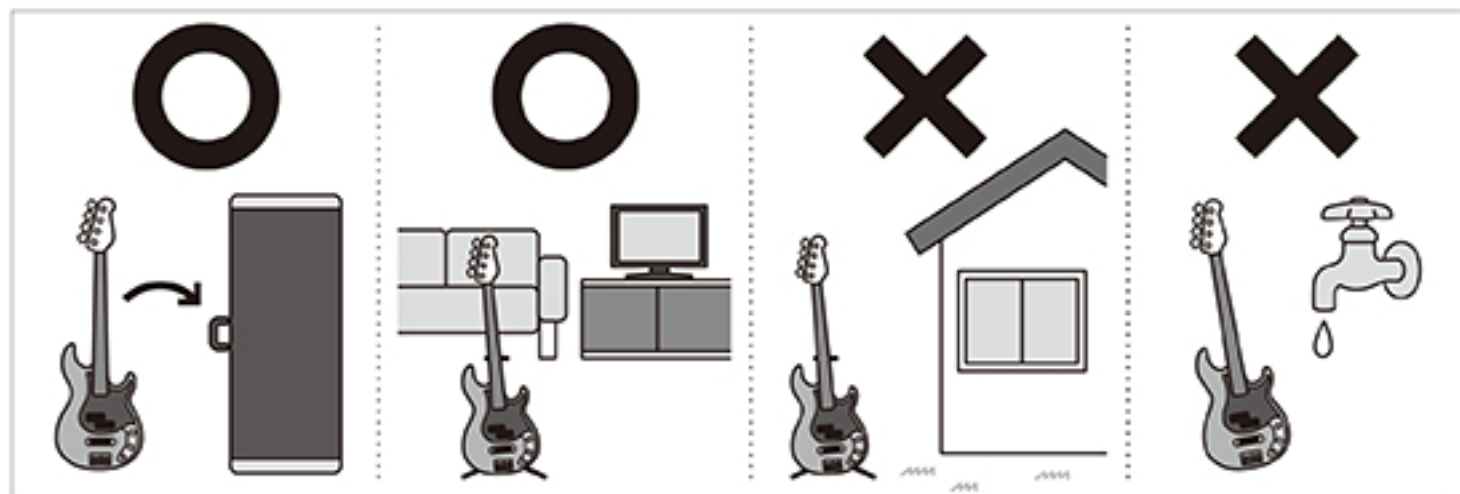
1～6弦までチューニングした後は、もう一度6弦からチューナーで確認しましょう。特に新品の弦は安定するまで何度もチューニングを行います。

6 日々のメンテナンス

ベースを弾いた後に行うメンテナンスです。大切な楽器を長持ちさせるためにもぜひ実践しましょう。

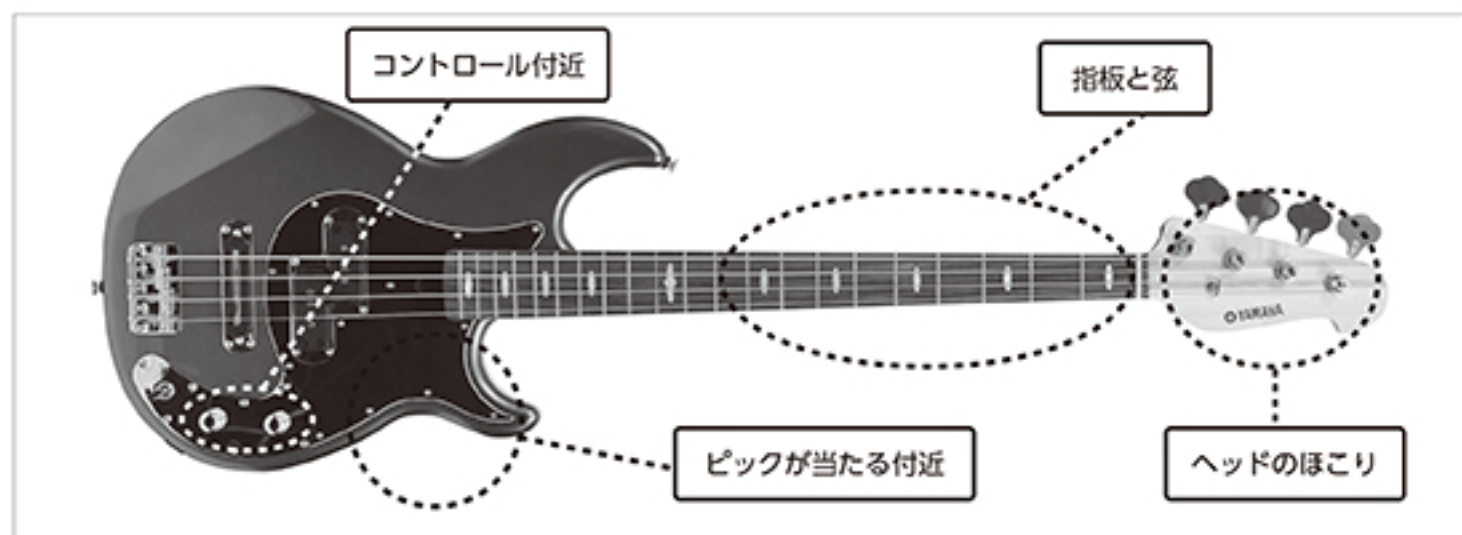
保管場所

温度、湿度が急激に変化する場所は保管に適しません。



汚れ、汗は拭きとる

ボディ、ネックの汚れや汗はクロスで拭き取りましょう。弦に付いた汗も軽く拭き取ると弦が長持ちします。



弦は緩めない

一度張った弦を緩める必要はありません。これはネックの状態を安定させるためにも重要なことです。